

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 白沢 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	38人	算数	38人	理科	38人
第5学年	国語	53人	算数	53人	理科	53人

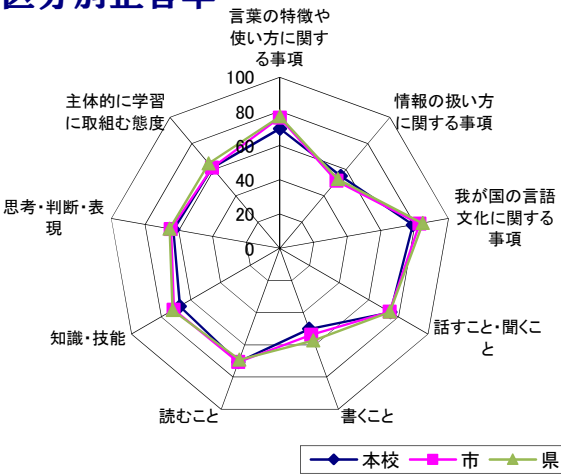
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.0	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	55.3	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	78.9	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	74.6	74.1	74.2
	書くこと	50.0	53.7	57.2
	読むこと	70.6	70.7	69.2
観点	知識・技能	67.5	71.6	72.3
	思考・判断・表現	63.2	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	61.6	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

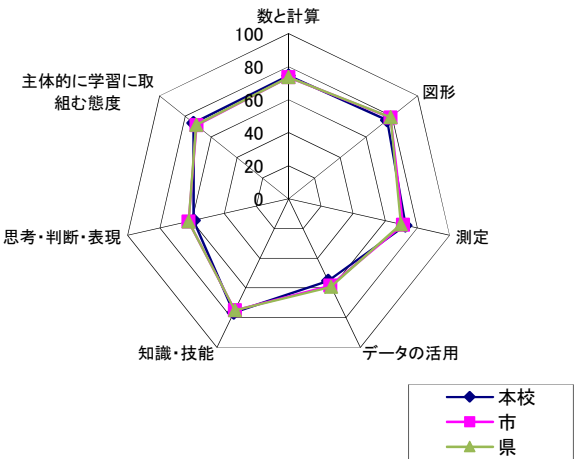
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	領域の平均正答率は70.0%で、市平均より6.4ポイント低い。 ○主語と述語に関する設問は、市平均より1.1ポイント高い。 ●第3学年の配当漢字の読みについては、3問中全問の正答率が、漢字の書きについては、3問中2問が市平均を下回っている。 ●ローマ字で表記されたものの読み方にに関する設問は、市平均より13.4ポイント低い。	・漢字やローマ字等の基礎的な学習内容を、自主的に繰り返し復習することで定着が図れるよう、家庭学習や朝学習を充実していく。 ・国語辞典や漢字辞典の活用を通して、漢字や語句、熟語などの理解を深めていく。
情報の扱い方にに関する事項	領域の平均正答率は55.3%で、市平均より3.8ポイント高い。 ○情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する設問は、市平均より7.1ポイント高い。 ○国語辞典の使い方にに関する設問は、市平均より3.2ポイント高い。	・情報活用能力がより高くなるように、複数の文章を並行して読む授業を計画的に増やしていく。 ・国語辞典を使うことを推奨しながら、語彙力を豊かにしていきたい。
我が国の言語文化に関する事項	領域の平均正答率は78.9%で、市平均より3.9ポイント低い。 ●漢字のへんやつくりに関する設問は市平均より3.9ポイント低い。	・漢字辞典を使うことを推奨しながら、漢字のへんやつくりに関心をもって学習できるようにしていく。
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は74.6%で、市平均より0.5ポイント高い。 ○伝えたいことの中心を捉える設問では、市平均より7.8ポイント、自分の考えを理由を挙げながら話す設問では、5.3ポイント上回っている。 ●話し手の工夫を捉える設問では、市平均を11.8ポイント下回っている。	・今後も引き続き授業の中に子どもたち同士の学び合いの場を積極的に取り入れることにより、話す・聞く力の向上を目指していく。 ・話を聞く際に、大事なことを落とさないように聞く他に、話し方の工夫を意識して聞き取れるような指導をしていく。
書くこと	領域の平均正答率は50.0%で、市平均より3.7ポイント低い。 ○考えとそれを支える理由との関係を明確にして書く設問では市平均より1.1ポイント、指定された長さで文章を書く設問では2.1ポイント上回った。 ●2段落構成で文章を書く設問では、市平均より10.4ポイント、自分の考えを明確にして文章を書く設問では、6.6ポイント下回った。	・国語だけでなく、他教科とも関連させ、要点や自分の考えをまとめる機会を増やし、書く力の向上を目指していく。 ・レポートや新聞にまとめる活動を通して、決められた長さや構成で文章を書く指導を充実させていく。

読むこと	領域の平均正答率は70.6%で、市平均とほぼ同じ。 ○叙述を基に文章の内容を捉える設問では、市平均より2.8～3.6ポイント上回った。 ●文章を読んで感じたことや考えたことを共有する設問では、市平均より7.0ポイント、段落の内容を捉える設問では、5.6ポイント下回った。	・説明文においては、要点や中心となる言葉を捉えて読み取る学習を充実させていく。 ・物語文においては、登場人物の性格や心情を捉えながら読み取る学習を強化していく。 ・読書の機会を増やし、想像力を働かせながら読み進める楽しさを実感させるようにしていく。
------	--	---

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.6	73.5	73.6
	図形	76.3	79.0	79.1
	測定	72.6	71.1	69.8
	データの活用	55.3	58.4	59.2
観点	知識・技能	76.4	75.0	75.0
	思考・判断・表現	59.0	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	73.7	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

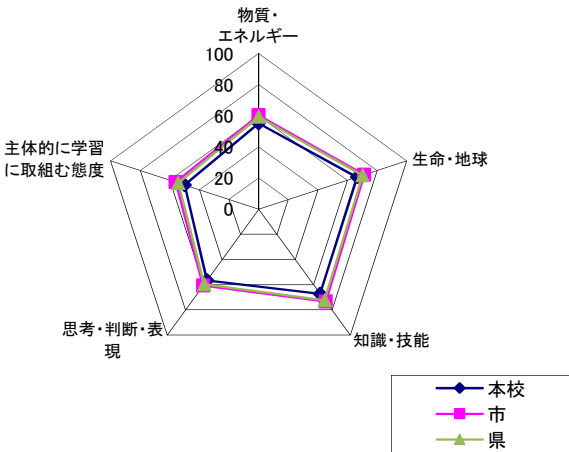
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	領域の平均正答率は、市の平均と比べて1.1ポイント高い。 ○「3けた－3けた＝3けたの計算」は、市平均と比べて8.9ポイント上回った。 ○「整数－小数第一位の計算」は、市平均と比べて14.8ポイント高い。 ●「2けた÷1けた＝1けたの計算」は、市平均と比べて4.4ポイント下回った。	・復習プリントやドリルなどを活用し、繰り返し計算練習をすることで、定着を図る。 ・問題文を読み取る力を伸ばすために、類似の問題を定期的に解くようにする。
図形	領域の平均正答率は、市の平均と比べて2.7ポイント低い。 ○「正三角形を作図する」では市平均と比べて6.6ポイント上回った。 ●「球の半径から、球が1つ入った箱の辺の長さを求める」では、市平均と比べて8.6ポイント下回った。	・正確な作図ができるように器具の操作や手順を丁寧に指導する。 ・図形の定義や性質を確実に理解させるために、具体物を活用していく。
測定	領域の平均正答率は、市の平均と比べて1.5ポイント高い。 ○「ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める」では市平均と比べて7ポイント上回った。 ●「単位の前にkがつくと、もとの単位の1000倍になることを説明する」では市の平均と比べて11.5ポイント下回った。	・問題を数直線や図を使って表す活動を取り入れ、数量感覚をつかめるようにする。 ・数学的用語や単位の意味を確認し、復習プリントやドリルで定着を図る。
データの活用	領域の平均正答率は、市の平均と比べて3.1ポイント低い。 ●「棒グラフを正しく読み取る」では市平均と比べて4.8ポイント下回った。 ●「複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取ることができる」では、市平均と比べて3.8ポイント下回った。	・問題を図や数直線などを使って表す活動を取り入れることで、式を立てられるようにする。 ・式の意味の理解を深めるために、ペア学習などを行って自分の考えを説明する活動を取り入れる。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.1	60.2	59.2
	生命・地球	66.4	71.3	70.3
観点	知識・技能	67.2	73.4	72.3
	思考・判断・表現	56.5	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	50.0	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	領域の平均正答率は55.1%で、市平均より5.1ポイント下回っている。 ○電気を通すものと通さないものを問う設問の正答率は92.1%で、市平均を1.8ポイント上回っている。 ○物の重さは、ものの形を変えても重さは変わらないことを考察する設問の正答率は68.4%で、市平均を1.9ポイント上回っている。 ●磁石が物を引き付ける力は、磁石と物の距離によって変わること推測する設問の正答率は39.5%で、市平均より15.1ポイント下回っている。また、磁石の極を確かめる方法を問う設問の正答率は50%で、市平均より6.8ポイント下回っている。 ●音の大きさによってゴムのふるえ方の変化を問う設問の正答率は57.9%で、市平均より13.5ポイント下回っている。また、糸電話の糸をつまむと音が伝わらない理由を説明する設問の正答率は34.2%で、市平均より14.8ポイント下回っている。	・観察や実験の結果を考察する際には、キーワードなどを提示し、自分で文章を書くことで理解につながるよう指導していく。 ・教科書や映像を見るだけでなく、体験を通したり、おもちゃ作りなどに生かし、学習したことを生活に生かすことで理解につなげていく。 ・授業だけでなくプリントやAIDリルなどを生かし、多くの問題に触れることで知識が身に付くよう継続して指導していく。
生命・地球	領域の平均正答率は69.4%で市平均より1.7ポイント低い。 ○設問別では、モンシロチョウがキャベツの葉に卵を産む理由の説明問題の正答率は、市平均を3.0ポイント上回っている。 ○日なたと日かげの地面の温度変化のグラフの読み取りの正答率は、市平均を4.8ポイント上回っている。 ●身近な自然の観察についての問題の正答率は、設問別でいずれも10.0ポイント以上市平均を下回っている。 ●植物の育ち方のグラフからの読み取り問題の正答率は、市平均より12.7ポイント下回っている。 ●太陽とかげのうごきについての理解の問題の正答率は市平均より6.7ポイント下回っている。	・身近な虫や植物について、絵を描いたり、実物を観察したりするなど、よく確かめながら学習を進めるようにする。 ・植物が育つ順序について観察の場面で具体的に確かめるようにする。 ・太陽とかげの動きについては、観察や実験を通して理解できるように丁寧に指導を行う。 ・普段の授業の中で分かることや気づいたことなどをじっくりと考えたり、書いたりできる時間を確保し、思考力を高めるように継続して指導していく。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

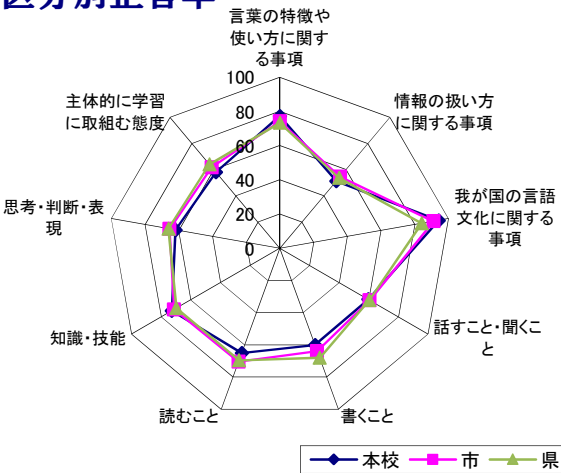
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「家でテストで間違えた問題について勉強をしている。」に「はい」と答えた割合は市の平均と比べて上回っている。今後も復習することの大切さを指導していく。
- 「1か月に、何冊くらい本を読みますか。」に「11冊以上」と答えた割合は市の平均と比べて上回っている。今後も図書室の利用を啓発していきたい。
- 「せんせいは学習のことについてほめてくれる。」に「はい」と答えた割合は市の平均と比べて上回っている。今後もほめてのばす指導を心がけていきたい。
- 「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」に「はい」と答えた割合は市の平均と比べて上回っている。今後も児童の意見を交えながら、学級で話し合うことや考える活動を充実させていきたい。
- 「だれに対しても、思いやりの心をもってせっている。」に「はい」と答えた割合は市の平均と比べて上回っている。「ふわふわ言葉」を使い、名前の呼び方にも気をつけながら生活できるよう指導を継続していく。
- 「学校のきまりを守っている。」に「はい」と答えた割合は市の平均と比べて下回っている。きまりは何のためにあるのかを機会ごとに話していく。
- 「学校での役わりや係の仕事に責任をもって取り組んでいる。」に「はい」と答えた割合は市の平均と比べて下回っている。仕事に責任をもって取り組むことの大切さについて日常的に指導していく。
- 「自分には、よいところがあると思う。」に「はい」と答えた割合は市の平均と比べて下回っている。友達のよいところを発表し合ったり、頑張っているところを教師が賞賛したりする機会を通して自信をつけさせていく。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.3	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	51.3	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	94.2	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	59.6	60.6	60.4
	書くこと	60.1	63.8	68.0
観点	読むこと	65.1	70.4	69.6
	知識・技能	72.9	71.3	69.9
	思考・判断・表現	61.9	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	58.1	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

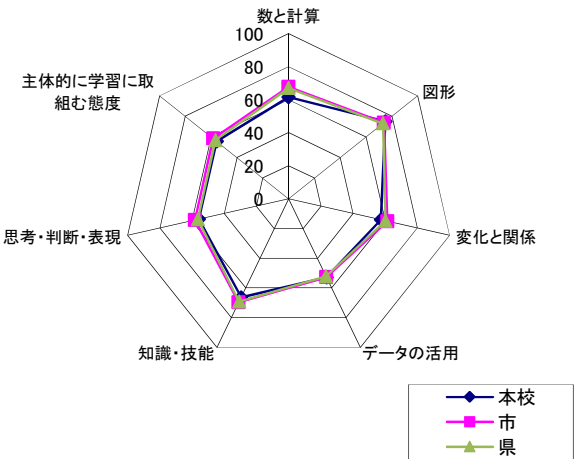
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	領域の平均正答率は、77.3%で、市の平均より3.1ポイント高い。 ○漢字を読んだり書いたりする設問の正答率は、ほぼ市平均と同じである。 ○性格を表す語句についての設問は、市の平均より5ポイント高い。”	・音読をする時間を増やし、読みの習熟を図る。 ・漢字ミニテストを計画的に行い、習熟を図る。 ・読書を薦め、読書をする言葉に触れ、言語の意味を考えるように支援する。 ・朝の学習の時間などを使い、楽しみながら言葉を身に付ける学習(例えば漢字ビンゴ、修飾語集め、チョークリレーなど)を行うなど、学習方法を工夫しながら、習熟を図る。
情報の扱い方に関する事項	領域の平均正答率は、51.3%で、市の平均より3.4ポイント低い。 ●漢字辞典の使い方についての設問では、市平均より3.1ポイント低い。 ●情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係についての設問では、市平均より11.5ポイント低い。	・国語の授業において、国語辞典や漢字辞典を使う機会を増やす。 ・朝の学習の時間に、辞典早引き大会を行うなど、学習方法を工夫しながら、習熟を図る。 ・国語の説明文の学習の際には、文章の構成について考える時間を十分に設ける。
我が国の言語文化に関する事項	領域の平均正答率は、94.2%で、市の平均より3ポイント高い。(ことわざについての設問)	・ことわざを暗記しようとするのではなく、日常生活の中で使ったり、意味の分からないことわざが出てきた場合は、辞書で調べたりするように支援する。 ・ことわざを使った4コマまんがや絵本を書いたり、ことわざの遊びをしたりするなど、学習方法を工夫しながら、習熟を図る。 ・ことわざ辞典を使う機会を多く設ける。
話すこと・聞くこと	領域の正答率は59.6%で、市平均より1ポイント低い。 ○情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話す設問は、市平均より4.3ポイント高い。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して、考えをまとめる設問は、市平均より6.7ポイント低い。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫をとる設問は、市平均より1.9ポイント低い。	・ペアやグループ学習で話し合いの機会を多く設定し、考えをまとめたり比べたりする経験を積み重ねる。少人数での話し合いで効果が現れたら、クラス全体で話し合いをするなど、スモールステップで学習形態を変えていくようにする。 ・各教科で話し合い活動を多く取り入れるようにする。その際は、分かりやすく話すことを意識させて話すように支援していく。 ・常時、友達の考えや意見との共通点や相違点を考えながら話を聞くように支援していく。
書くこと	領域の正答率は60.1%で、市平均より3.7ポイント低い。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く設問は、市平均より2ポイント高い。 ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書く設問は、市平均より1.6ポイント高い。 ●アンケート調査の結果から読み取ったことを書く設問は、市平均より11.2ポイント低い。 ●指定された長さで文章を書く設問は、市平均より7.3ポイント低い。	・各教科において、書く活動を多く取り入れるようにする。 ・宿題や朝の時間にテーマ作文や日記に取り組ませるようにする。 ・本を読む時間を多く設け、語彙を増やすことにつなげるようにする。 ・友だちの文章を読む機会を多く設け、文章の書き方等を学ぶようにする。 ・社会や算数の学習で、グラフや表などの情報から読みとったことを文章に書く活動を十分に行う。

読むこと	領域の正答率は65.1%で市平均より5.3ポイント低い。 ○登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える設問は、市平均より5.9ポイント高い。 ●登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する設問は、市平均より11.5ポイント低い。 ●文章で読んで感じたことや考えたことを共有する設問は、市平均より7.9ポイント低い。	・読み聞かせをしたり、読書の時間を多く設定したり、本に多く触れるようにし、語彙力を高める。また、速読ができるようにする。 ・国語の読む学習では、叙述に沿って登場人物の気持ちなどを考え、根拠とする叙述を明らかにする学習を行うようにする。 ・文章の構成についての学習を丁寧に行い、十分に児童が考えることができるように授業を工夫する。 ・物語や説明文の学習や本を紹介する学習で要約の学習をし、要約の力を伸ばすようにする。
------	--	---

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.5	67.8	67.0
	図形	75.0	73.9	73.1
	変化と関係	57.4	61.4	60.2
	データの活用	52.9	52.7	52.1
観点	知識・技能	66.3	69.7	69.2
	思考・判断・表現	55.8	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	55.8	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

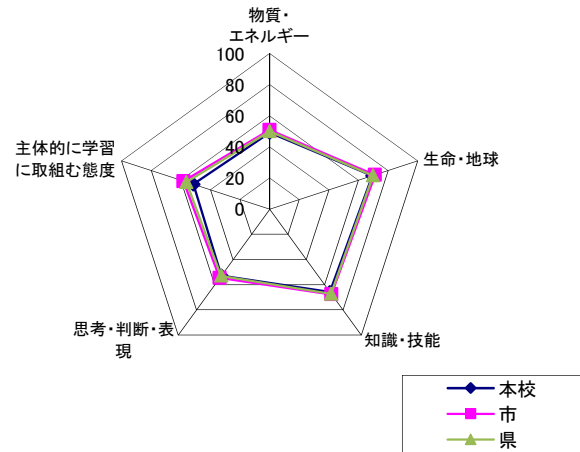
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を6.3ポイント下回っている。 ○小数のしくみの問題では、市の平均を1.4ポイント上回った。 ●分数の問題に課題が見られた。分数の大小比較の問題では、市の平均を大きく下回った。 ●上からある桁までの概数の表し方の問題では市の平均を15.6ポイント下回った。	・小数・分数の基本的な計算についての習熟を図るために、計算練習を繰り返して行えるよう、継続的に指導する。 ・文章題の理解については、テープ図や数直線等の具体物を取り入れ、問題場면을視覚化した指導を行っていく。
図形	平均正答率は、市の平均を1.1ポイント上回っている。 ○ひし形の作図の問題では、市の平均を6.4ポイント上回っている。 ○およその面積を求める問題では、市の平均を8.9ポイント上回っている。 ●分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み取り方を問われる問題では、市の平均を6.3ポイント下回っている。	・直方体の辺の位置関係については、具体物を使って、視覚的に理解できるよう指導する。 ・分度器の使い方など、基本的な技能の定着を図れるよう、繰り返し指導する。
変化と関係	平均正答率は、市の平均を4ポイント下回っている。 ○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題では、市の平均を2.2ポイント上回っている。 ●割合に関する問題での正答率が低かった。特に、数量の関係を割合を使って説明する問題では、市の平均を8.4ポイント下回った。	・割合については、4・5・6年生を通じて数直線やテープ図などを用いた指導を大切にする。問題をたくさん解き、習熟を図れるようにする。 ・数量やその関係を言葉・数・式・図・グラフなどに表したり調べたりする学習活動を継続して行っていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均を0.2ポイント上回っている。 ○折れ線グラフと棒グラフを読み取る問題では、市の平均を15ポイント上回った。 ●二次元表を読み取る問題では、市の平均を7.4ポイント下回った。	・グラフや表、設問の意味を正しく読み取ることができるよう、算数の授業だけでなく、他教科でも意識的に指導していく。 ・グラフや表のかき方や読み取れることを説明する場を設け、さらに定着を図る。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	49.1	50.8	50.0
	生命・地球	69.4	71.1	69.8
観点	知識・技能	65.9	67.6	67.2
	思考・判断・表現	52.8	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	51.5	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	領域の平均正答率は49.1%で、市平均よりやや下回っている。 ○「乾電池を直列つなぎと並列つなぎにしたときの検流計の針のふれ方を推測する設問」においては、市の平均正答率を約6ポイント上回った。 ○「空気、水、金属の順に温度による体積変化が大きいことに関する設問」では、市の平均正答率を12ポイント上回った。 ●「水を冷やした時の温度変化のグラフに関する設問」や、「水の姿(氷、水、水蒸気)についての設問」については、市の平均正答率より約10ポイント下回った。 ●「電車の冷房と暖房の吹き出し口の位置が異なる理由を空気の温まり方を基に考えて説明する設問」については、本校の平均正答率が28.8%と低く、身の回りの現象と理科で学習したことを関連付ける力に課題が見られた。	・基礎事項の定着を図るために、既習の学習内容をよく復習し、確認してから授業を進める。系統的な学習をさらに充実させていく。 ・単元の導入やまとめの際に、身の回りの生活と関連させた授業を設定し、理科への興味関心を高めさせる。 ・実験を行うときには、予想・実験・結果および考察という過程を習慣化し、なぜそうなるのか根拠が述べられるようにするなど、科学的思考を高める指導の重点化を図る。
生命・地球	領域の平均正答率は69.4%で、市平均よりやや下回っている。 ○「1日の気温の変化のグラフから晴れの日を判断し、その理由を説明する設問」では、市の平均正答率を3ポイント上回った。 ○「水は高い場所から低い場所へと流れて集まること」や、「方位磁針の使い方」、「結露の現象」については、市の平均正答率を上回り、平均正答率も概ね80%と高い値となった。 ●「オオカマキリの季節ごとの様子」や、「満月の一日の動き方」については、市の平均正答率を約10ポイント下回った。	・年間を通じて「観察ノート」をつけていくなど、季節の変化の様子に触れる機会を作っていくことで、自然に目を向ける機会を増やすなどの工夫をする。 ・星や太陽、月などの動きについては、実際に動きを観察したり記録したりすることによって、実感を伴った理解ができるように手助けしていく。 ・観察を行う際には、結果や考察を自分の言葉で書かせることを習慣化させ、繰り返すことで表現力を高めていく。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」に「はい」と答えた児童の割合は、市の平均より20.7ポイント高い。また、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」に「はい」と答えた児童の割合は、市の平均より10.9ポイント高いことから、意欲的に学習に取り組む姿勢が見られる。今後も、児童の頑張りを認め、称賛してさらなる意欲の向上に努めていきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」に「はい」と答えた児童の割合は、市の平均より、14.3ポイント高く、授業の中で、児童同士で意見を交換する場面を多く取り入れている成果であると考えられる。今後も、話し合い活動の充実に努めていきたい。

○「家の人と学習について話をしている」に「はい」と答えた児童の割合は、市の平均より12ポイント高い。また、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」に「はい」と答えた児童の割合は、市の平均より10.6ポイント高いことから、家庭や地域に対して、積極的に関わる児童の様子が伺える。今後も、家庭や地域と協力して児童の育成を図っていききたい。

●家庭での学習の時間についての質問に対して、「1時間以上2時間より少ない」と回答した児童の割合は、市平均とほぼ同じくらいで、学年の家庭学習の目安60分に取り組んでいる。しかし、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」と答えた児童の割合は、市の平均より7.6ポイント低く、宿題が中心の家庭学習になっていると考えられる。今後は、自主学習の仕方や内容などを紹介し、家庭と連携を図りながら支援していきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」に「はい」と答えた児童の割合は、市の平均より13ポイント高い。授業中に話し合う活動や考える時間を十分に確保することで、自信を持って書けるように支援していきたい。

●家庭での携帯電話の使用についての質問に対して、「4時間以上」と回答した児童の割合が、市の平均より6.4ポイント高い。また、テレビゲームの使用についても、2時間以上使っている児童の割合がどれも市の平均を上回っている。携帯電話やテレビゲームの使用の仕方について、学級で確認すると共に、家庭と連携を図りながら、改善していきたい。

宇都宮市立白沢小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業における話し合い活動の充実	全ての学年・クラスで、発達段階や場面に合わせて、ペア・トリプル・グループの話し合い活動を多く取り入れ、表現の仕方を指導している。	5年生の「話し合いの中で意見の相違点をまとめる」問題では市平均よりも低いが、4・5年生ともに、国語科の「理由を挙げながら話す」問題では市平均を大きく上回っている。
基礎基本の定着を図る朝の学習の充実	朝の学習では、曜日を決めて、国語・算数の基礎基本の定着を図るよう、漢字や計算問題の繰り返し学習を行っている。	5年生の算数では、「数と計算」の領域で、市平均を大きく下回っている。基礎基本の定着のための繰り返し学習を引き続き根気強く取り組んでいく。
家庭学習の習慣化に向けた指導の充実及び家庭との連携	学年に応じて取り組むべく家庭学習の時間と家庭学習のやり方を示して指導するとともに、全家庭に周知し、保護者の協力を得るようにしている。	質問紙調査の結果、学年の家庭学習の目安時間はほぼ取り組んでいる。また、5年生では「自主学習に取り組んでいる」「家庭で学習について話し合っている」などの項目で市平均を大きく上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語科において、4年生では「言葉の使い方や特徴に関する事項」の領域で、5年生では「読むこと」の領域で、市平均を大きく下回っている。	語彙力を強化するための読書活動の充実	全校を通して「奨励図書」を示し、読書記録のやり方を改善していくことで、読書内容の充実と読書量の増加を促し、語彙力の強化を図れるようにする。また、朝の学習や家庭学習の取組を引き続き充実させていく。